科目名			担当教員	
ソーシャルワーク演習（精神保健福祉士）			三城　大介ほか	
科目コード	単位数	スクーリング単位	履修方法	配当年次
CW3283	2	1	SR（演習）	2年以上
生成 AI 利用レベル		レポート　：　C	試験（スクーリング含む）　：　C	

◇科目コード

目的資格	科目コード
社会福祉士受験資格	CN3251
精神保健福祉士受験資格	CW3283

※目的資格によって異なります。履修登録の際、ご注意ください。

※両方の資格希望者は「ソーシャルワーク演習（社会福祉士）」科目コード：CN3251 のみを履修してください。

※「ソーシャルワーク演習（精神保健福祉士）」は、年 1 回のみの開講となりますので、日程調整にご注意ください。

◇用語について

記載の略称	正式名称
ソーシャルワーク演習	ソーシャルワーク演習（精神保健福祉士）
精保演習Ⅰ	精神保健福祉演習Ⅰ
精保実習指導Ⅰ	精神保健福祉実習指導Ⅰ
精保実習Ⅰ	精神保健福祉実習Ⅰ（福祉施設実習）
精保実習Ⅱ	精神保健福祉実習Ⅱ（医療機関実習）

科目の概要

■科目の内容

個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレーイング等）を中心とする演習形態により、ソーシャルワークの価値規範と倫理、ソーシャルワークに必要なコミュニケーション能力、ソーシャルワークの展開過程において用いられる、知識と技術の基礎的能力を習得します。情報の収集・整理・伝達の技術、地域福祉の基盤整備と開発についても、事例を通して実践的に習得します。

■到達目標

1）精神保健福祉領域における援助の基礎的知識と技術、基本的なコミュニケーション技術について説明できる。
2）基本的相談援助の視点や技術について説明できる。
3）グループダイナミクス活用技術について説明できる。
4）ケースワーク、グループワーク、コミュニティソーシャルワークの基本について説明できる。
5）自己理解（自己覚知）の意義について説明できる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「人と社会の理解力」「俯瞰的な分析力」「倫理的実践力」「開発・創造力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価30%＋スクーリング評価 70%

※評価は総合的に行い、グループワークにおける協力や演習への積極的参加を求める。なお、評価基準については、教育プログラムの質的向上を目的に適宜見直しを図り、改定していきます。

■教科書・参考図書

【教科書】

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新　社会福祉士・精神保健福祉士養成講座［共通科目］１３ソーシャルワーク演習（共通科目）』中央法規出版、２０２１年

（スクーリング時の教科書）上記教科書を参考程度に使用し、適宜配付する資料と併用して演習を進めます。

【参考図書】

適宜、演習の中で紹介します。

スクーリング

■スクーリング受講申込上の注意

- 1 クラス20 人以内で開講します。
- 申込方法は、学生専用『ポータルサイト』または『With』でご案内します。
- 開講日・申込締切日・受講料は、『試験・スクーリング情報ブック』または『With』をご参照ください。
- 複数開講の場合、申込締切後に受講日程変更の申し出は受け付けできません。また、必ずしも第一希望での受講ができない場合がありますので、ご了承ください。
- 受講許可証（メール）・受講料納入依頼書は、各受講判定日以降に発送します。
- クラス分けは無作為に行いますので、教員の指定はできません。
- 公共交通機関の延着を除き、遅刻・欠席は認められません。また、スクーリング終了時間前の退席は認められません。
- 「ソーシャルワーク演習」（7 月）または「精保実習Ⅰ」の実習選考試験（9 月下旬）が不合格となった場合、当年度の「精保実習Ⅰ」の申込み（8 月中旬）は無効となります。

■スクーリング受講条件

【実習受講者・実習免除者共通】「ソーシャルワーク演習」スクーリング

※最新の受講条件は、申込時の学生専用『ポータルサイト』または『With』でご確認ください。

①受講 1 カ月前の指定期日までに達成

- 「ソーシャルワーク演習」1 単位めレポートの提出
- 卒業要件20 単位以上の修得（入学時の認定単位を含む）

②受講 1 カ月後の指定期日までに達成

- 「ソーシャルワーク演習」２単位めレポートの提出

■スクーリング受講・単位認定について

演習のスクーリングにおいては、自己紹介、学生同士の話し合いや発表・ロールプレイング等の実施を予定しており、積極的な参加が求められます。

また、実習の受講を希望する方は、実習前年度に実施される「精保実習Ⅰ※」の実習選考試験によって次年度実習受講の可否の判定を受けてください。

※精保実習Ⅰ：障害福祉サービス事業を行う施設等における実習

●単位認定

レポート＋「ソーシャルワーク演習」スクーリング評価等から総合的に単位認定します（前項「■科目評価基準」参照）。

２単位めレポートが所定の期日までに提出されない場合は、スクーリングの受講は無効となります。

また、２単位めレポートが再提出の場合は、再提出となったレポート到着後、指示された期日までに再提出を行わないとスクーリングの受講は無効になります。

この科目の最終スクーリング結果通知は、２単位めレポートの提出締め切り後に郵送またはメールで行います。

スクーリングを欠席・不合格の場合、合格済みの１単位めレポートは無効となります。次回以降の「ソーシャルワーク演習」を申込む際は、所定の期日までに再度「ソーシャルワーク演習」の課題１レポートの提出を行ってください。

■実習選考試験・補講演習について

・実習選考試験→『学習の手引き』３章「実習選考試験」参照※実習受講者対象

・補講演習→『学習の手引き』３章「補講演習」参照

「ソーシャルワーク演習」受講申込者で実習免除者以外は、「精神保健福祉実習Ⅰ」を申込むことが前提となります。「ソーシャルワーク演習」または「実習選考試験」が不合格となった場合、当年度の「精神保健福祉実習Ⅰ」の申込みは無効となります。

■スクーリングで学んでほしいこと

ソーシャルワークの基本的な知識・技術・視点・倫理・価値に関する事例等を用いたロールプレイに取り組む中で、基本的な対人援助技術を身につけてください。対人援助者として自身の適性について、「得意な部分」・「今後伸ばすべき部分」への気づきを意識しながら学んでください。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	精神保健福祉領域における援助の基礎的知識と技術	オリエンテーションおよび精神保健福祉領域における相談援助の基本、専門職としての価値・倫理
2	基本的なコミュニケーション技術	基本的なコミュニケーション技術と面接技術
3	基本的相談援助技術	相談援助技術の概念と範囲、情報の収集・整理・伝達、課題の発見と分析、記録技術、ジェノグラムとエコマップの活用方法、プレゼンテーション技術
4	グループダイナミクス活用技術	グループダイナミクス活用技術とその効果、グループワークの活用方法
5	ケースワーク	ロールプレイによる面接技術ならびにケースワークの基本と事例検討、ソーシャルワークの展開過程
6	グループワーク	グループワークの基本と事例検討
7	コミュニティソーシャルワーク	コミュニティソーシャルワークの基本と事例検討
8	自己覚知	自己覚知の必要性と他者理解

■講義の進め方

この演習では板書をもとにした座学と、事例やテーマに沿ったディスカッションやロールプレイを併用して進めます。教科書は参考程度に使用します。

■スクーリング評価基準

スクーリング中に学んだことを、到達目標の記載内容に重きを置いて評価します。

演習レポート30%＋演習内容 70%

※評価はグループワークにおける協力や演習への積極的参加の度合い等から総合的に行います。なお、評価基準については、教育プログラムの質的向上を目的に適宜見直しを図り、改定していきます。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10 時間）

1）「ソーシャルワーク演習」1 単位めレポートを作成し、期日までに提出すること（『試験・スクーリング情報ブック』または『With』参照）。

2）所定の期日までに演習受講申込受理・受講条件に定める学習を終えていること（『学習の手引き』３章を参照）。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25 時間）

1）「■在宅学習 15のポイント」の 15回を参照し、演習内容を振り返りながら援助者としての自己の適性について振り返りを行う。

2）「ソーシャルワーク演習」２単位めレポートを作成し、期日までに提出すること（『試験・スクーリング情報ブック』または『With』参照）。

レポート学習

■在宅学習 15 のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	ソーシャルワーク演習の意義と目的	ソーシャルワーク演習の目標とねらいについて理解する。	コルプの経験学習モデルに基づく学習サイクルについて確認し、演習の意義や学びの方法・内容について整理する。演習の習得目標であるソーシャルワーカーのコンピテンシー（優れたワーカーに共通する行動特性やスキル）について整理する。
2	精神保健福祉士の業務・役割	社会福祉士・精神保健福祉士・ソーシャルワーカーの業務と役割について理解する。	「社会福祉士及び介護福祉士法」「精神保健福祉士法」国際ソーシャルワーカー連盟と国際ソーシャルワーク学校連盟が採択した「ソーシャルワーク専門職のグローバル定義」、公益社団法人日本精神保健福祉士協会「精神保健福祉士業務指針」から、それぞれの業務・役割について確認する。
3	ソーシャルワークの実践レベル	ソーシャルワークのミクロ・メゾ・マクロの実践レベルについて理解する。	ソーシャルワークの対象として、個人・家族・グループ、組織・コミュニティ、人権と社会的・経済的環境的な正義の推進、政策実践への関与等を一体的に捉え問題解決を検討する視点の意味について考える。

4	人と環境の交互作用	人間理解の視点・生活モデル、社会システムの視点から人と環境の交互作用について理解する。	クライエントの状況と環境を評価する際の、バイオ・サイコ・ソーシャルモデルによる視点・理解について整理する。
5	自己理解と他者理解	ソーシャルワーカーとしての自己理解（自己覚知）の必要性について理解する。	援助者として自己理解を図ることの意味について考える。
6	ソーシャルワークの機能	ソーシャルワークの目標から捉えた機能について理解する。	マルチパーソンクライエントシステムについて確認する。複雑化・多様化するニーズや課題に対して、クライエントをエンパワメントし、社会資源の調整・開発等の過程を通して社会生活を支えることの意味について考える。ケースワーク、グループワーク、コミュニティソーシャルワーク、ケアマネジメントについて整理する。
7	ソーシャルワークの目標	ソーシャルワークの目標について理解する。	ソーシャルワークの目標である、クライエントの問題解決能力や環境への対処能力の強化、必要な社会資源との関係構築・調整、機関や施設の効果的な運営や相互の連携の促進、制度や施策の改善・発展、社会全体の変革の促進について整理する。
8	ソーシャルワークの価値基準・倫理・理念１	個人的な価値観と専門職としての価値観の違い、ソーシャルワークにおける理念について理解する。	「ソーシャルワーカーの倫理綱領」「社会福祉士の倫理綱領」「精神保健福祉士の倫理綱領」を確認する。
9	ソーシャルワークの価値基準・倫理・理念２	ソーシャルワークの理念、原理・原則、倫理的ジレンマについて理解する。	ソーシャルワークにおける倫理の必要性、ソーシャルワーカーが所属する機関の機能とソーシャルワーク実践との間に生じる葛藤について考える。
10	コミュニケーション技術	ソーシャルワークにおけるコミュニケーション技術について理解する。	ソーシャルワークにおけるクライエントとの基本的かかわりの特質、コミュニケーションの在り方について整理する。自身のアンコンシャスバイアスについても洞察する。
11	面接技術１	面接の構造化・面接の場所（環境）について理解する。	面接の構造と要素（クライエント、ワーカー、面接の目的、テーマ、場所、時間、コミュニケーション）、面接室・生活場面での面接について整理する。
12	面接技術２	面接技術における言語的表現（バーバルコミュニケーション）、非言語的表現（ノンバーバルコミュニケーション）、様々な面接ツールについて理解する。	言語的表現の中心的な技法である、「焦点を当てていく」「開かれた質問と閉じられた質問」「感情の反映」「内容の反映」等の面接技術、非言語的表現の活用について整理する。電話や Web 等の ICT を用いた面接の意義や留意点について考える。面接技術に関連して、基本的なプレゼンテーション技術について、整理する。
13	ソーシャルワークの展開過程と関連技法１	ケースの発見とエンゲージメント（インテーク）、アセスメント、プランニングについて理解する。	事例を用い具体的場面を想像しながら、各展開過程におけるソーシャルワーカーの立ち位置、ミクロ・メゾ・マクロの実践レベルにおける視点、支援における留意点について整理する。
14	ソーシャルワークの展開過程と関連技法２	インターベンション（支援の実施）とモニタリングについて理解する。	事例を用い具体的場面を想像しながら、各展開過程におけるソーシャルワーカーの立ち位置、ミクロ・メゾ・マクロの実践レベルにおける視点、支援における留意点について整理する。

15	ソーシャルワークの展開過程と関連技法３	支援の終結と結果評価、アフターケアについて理解する。	事例を用い具体的場面を想像しながら、各展開過程におけるソーシャルワーカーの立ち位置、ミクロ・メゾ・マクロの実践レベルにおける視点、支援における留意点について整理する。

■レポート課題

１単位め	**※スクーリング事前レポート（所定の期日までに提出）** 生活モデルにおいて人と環境の交互作用を重視し、人と環境の接触面に介入することについて具体的に説明してください。
２単位め	**※スクーリング事後レポート（スクーリング受講後、所定の期日までに提出）** ソーシャルワーカー（精神保健福祉士）として、クライエントの査定を行う際に留意すべき点を具体的に説明してください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

レポート作成にあたっては、ご自身の経験だけでなく、教科書をよく読んだ上で取り組んでください。ただし、教科書や参考図書、Web サイトの記事の複写は認められません。参考・引用した文献・資料等があれば必ず出典明示してください（出典の記載方法は『学習の手引き』を参照）。

【1 単位めアドバイス】

テキストの２章を読み、ソーシャルワークにおける対象把握の一つである生活モデルを理解したうえで、課題に取り組んでください。

【2 単位めアドバイス】

テキストの４章を読み、ソーシャルワークにおけるクライエントとの基本的かかわりの特質について理解したうえで、課題に取り組んでください。

■レポート評価の基準

レポートは感想文ではありません。自身の考えを述べる際は、必ずその根拠を示してください。

■レポートの提出方法

1）1 課題につき、1 冊のレポート提出台紙を使用してください。
2）1 単位のレポート文字数は、2,000 字程度ですが、最長４,000 字程度まで記入していただいても結構です。パソコン印字の場合→左右４0 字×３0 行×２～４枚まで可。
3）教員名の欄には記入しないでください。
4）各レポートは、所定の提出締切日までに提出してください（『試験・スクーリング情報ブック』または申込時の『With』参照）